

福島県PTA連合会会報
第28号_H01.11.20

大会主題

—21世紀をになう心身ともにたくましく
個性豊かな子どもの育成をめざすPTA活動—

**子どもの健全育成めざし
活発に協議展開**

第38回福島県PTA研究大会相馬大会終わる

「二十一世紀をになう、心身ともにたくましく、個性豊かな子どもの育成をめざすPTA活動」を大会の主題に掲げ、県下千八百余名の会員参加のもと、「野馬追と民謡の里、歴史と開発のまち」相馬市において、第三十八回福島県PTA研究大会相馬大会が、十月六日、七日の両日にわたって開催された。

一日目は、「子どもの健全育成のためのPTAの果たすべき役割をしっかりと受け止めよう」との主催者の開会あいさつに続いて、長年にわたるPTAへの功労者、団体

「二十一年紀をになう、心身ともにたくましく、個性豊かな子どもの育成をめざすPTA活動」を大会の主題に掲げ、県下千八百余名の会員参加のもと、「野馬追と民謡の里、歴史と開発のまち」相馬市において、第三十八回福島県PTA研究大会相馬大会が、十月六日、七日の両日にわたって開催された。

一日目は、「子どもの健全育成のためのPTAの果たすべき役割をしっかりと受け止めよう」との主催者の開会あいさつに続いて、長年にわたるPTAへの功労者、団体



子連P

ま

5-1 内会館 5982 元
 3-5 部連合 5982 元
 田部年連 5982 元
 岩少T A 45 (45) 5982 元
 黒青P T A (45) 5982 元
 市島県P T A (45) 5982 元
 福島県P T A (45) 5982 元
 電話0245 (45) 5982 元
 印刷所 57-1071 元
 印刷所 57-1071 元
 印刷所 57-1071 元

- 輝く受賞者**
- 平成元年度県連P会長
 より感謝状・表彰状を受賞、芳名簿
- △感謝状▽
- 「県連P前会長副会長」
 前会長 本田文吾
 前副会長 鈴木喬二
 前副会長 村岡房之助
 - 「県連P前理事」
 幕田勝寿 馬場 有
 伊藤守敏 中木直右衛門
 大内康司 添田憲治
 青戸孝夫 猪俣昭衛
 広川好一 善澄 満
 鈴木敏正 音高幸子
 鈴木和子
 - 「県連P前事務局員」
 荒川久吉 尻谷 洋
 - 「各地区前事務局長」
 小野寺寿雄 土田 隆
 井上三男 赤沼良清
 川音正平 鈴木俊三郎
 市川守孝 大高盈男
 宗田勇氣 佐藤幹夫
 芦沢 健 柴 愛吉
 - △表彰▽
- | | |
|---------------|-------------|
| 福島市立清水中PTA | 保原町立松陽中PTA |
| 同 市立梨平小PTA | 霊山町立大石小PTA |
| 同 市立大波小PTA | 本宮町立五百川小PTA |
| 同 市立立子山小PTA | 同 町立本宮小PTA |
| 同 市立平石小PTA | 同 町立本宮二中PTA |
| 同 市立福島一小PTA | 東和町立木幡一小PTA |
| 同 市立立川小PTA | 同 町立木幡二小PTA |
| 同 市立立川一小PTA | 同 町立針道小PTA |
| 同 市立立川二小PTA | 二本松市立杉田小PTA |
| 同 市立立川三小PTA | 郡山市立宮城中PTA |
| 同 市立立川四小PTA | 同 市立郡山三中PTA |
| 同 市立立川五小PTA | 同 市立西田中PTA |
| 同 市立立川六小PTA | 同 市立小山田小PTA |
| 同 市立立川七小PTA | 同 市立赤津小PTA |
| 同 市立立川八小PTA | 須賀川市立柏城小PTA |
| 同 市立立川九小PTA | 石川町立石川中PTA |
| 同 市立立川十小PTA | 船引町立芦沢小PTA |
| 同 市立立川十一小PTA | 小野町立小野中PTA |
| 同 市立立川十二小PTA | 西郷村立西郷一中PTA |
| 同 市立立川十三小PTA | 鮫川村立西山小PTA |
| 同 市立立川十四小PTA | 若松市立一箕小PTA |
| 同 市立立川十五小PTA | 同 市立双瀧小PTA |
| 同 市立立川十六小PTA | 北会津村立川南小PTA |
| 同 市立立川十七小PTA | 坂下町立坂下小慈育会 |
| 同 市立立川十八小PTA | いわき市立玉川中PTA |
| 同 市立立川十九小PTA | 同 市立藤間中PTA |
| 同 市立立川二十小PTA | 同 市立久之浜中PTA |
| 同 市立立川二十一小PTA | 同 市立藤原小PTA |
| 同 市立立川二十二小PTA | 同 市立草野小PTA |
| 同 市立立川二十三小PTA | 同 市立小名浜小PTA |
| 同 市立立川二十四小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川二十五小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川二十六小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川二十七小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川二十八小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川二十九小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川三十小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川三十一小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川三十二小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川三十三小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川三十四小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川三十五小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川三十六小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川三十七小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川三十八小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川三十九小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川四十小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川四十一小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川四十二小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川四十三小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川四十四小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川四十五小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川四十六小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川四十七小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川四十八小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川四十九小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川五十小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川五十一小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川五十二小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川五十三小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川五十四小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川五十五小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川五十六小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川五十七小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川五十八小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川五十九小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川六十小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川六十一小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川六十二小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川六十三小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川六十四小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川六十五小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川六十六小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川六十七小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川六十八小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川六十九小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川七十小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川七十一小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川七十二小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川七十三小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川七十四小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川七十五小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川七十六小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川七十七小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川七十八小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川七十九小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川八十小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川八十一小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川八十二小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川八十三小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川八十四小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川八十五小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川八十六小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川八十七小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川八十八小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川八十九小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川九十小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川九十一小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川九十二小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川九十三小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川九十四小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川九十五小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川九十六小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川九十七小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川九十八小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川九十九小PTA | 同 市立立川小PTA |
| 同 市立立川一百小PTA | 同 市立立川小PTA |

第一分科会

「会員の参加意識を高める組織・運営を考えよう。」

○PTA活動は、学級PTAが一番の基本である。学年PTAも学級PTAの意見を吸いあげて組織されていくものである。

提言では、木幡一小から、地域全体の共通理解、父母が本音で発言できる雰囲気づくりなど、会員のPTAに対する意識の高揚をはかる手だての工夫について。又河東中からは、役員PTAでなく会員のPTAとして、活動計画に工夫をこらし、会員に充実感の残るPTA活動について。そして鏡石一小からは、リーダー養成のために役員任期の見直し、人材発掘の推進等について。また、あつた。

○先輩の気配りが大切である。お互いのふれ合いの中で育成されていくものである。

○役員PTAでなく、会員のPTAとして、活動計画に工夫をこらし、会員に充実感の残るPTA活動について。そして鏡石一小からは、リーダー養成のために役員任期の見直し、人材発掘の推進等について。また、あつた。

○子どもをより理解し、子どもを高め、いろいろな行事・企画をアプロウチしよう。

第二分科会

提言では、飯野小から

○PTA活動は、学級PTAが一番の基本である。学年PTAも学級PTAの意見を吸いあげて組織されていくものである。

○子どもをより理解し、子どもを高め、いろいろな行事・企画をアプロウチしよう。

○子どもをより理解し、子どもを高め、いろいろな行事・企画をアプロウチしよう。

第三分科会

「家庭教育の役割を見直し、家庭教育力を回復させよう。」

○活動の目やすを明確にして実践すれば成果が期待でき、活動をすすめる中で信頼関係が深められていくものである。

○時代の変革に伴う対応のあり方を組織として深め合い、継続して実践することが大切である。

○生涯教育は学校教育からの脱却、時間的余裕に対する余暇の善用、科学技術の進歩に対する研修等を取り上げる必要があるが、PTA活動にどう取り入れるかについては、意味付け、位置付けを明確にして実践することが大切である。

研究協議においては、これらの提言に対して、親の立場から、そして教師の立場からと、十数名の方々より質問や意見が出され、大変活発であった。

最後に、八巻・中澤両先生よりご指導をいただいた。

○子どもががんばれる家庭環境づくりが大切。○家庭では、「見守り教育」が必要。○家庭教育は生涯教育の根底を成すものである。○親は、子どもの進路に関して、まじめに、しかも具体的に相談にのってやるのが大切である。

分科会報告

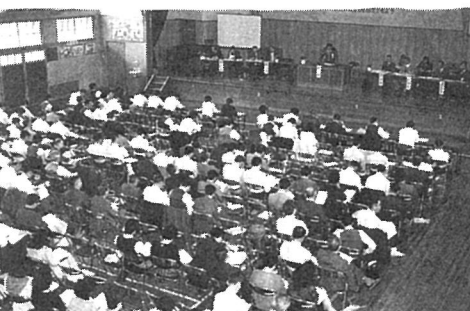
協議では、協賛では、役員の選出方法、リーダーの養成につながる活動等について活発な意見交換がなされた。池田・渡邊先生のご指導では、



より、学校・家庭・社会の役割が明確になり相互に補完し合う教育の機能が期待できるなどの発表があった。協議では、会員の意識と活性化を図るための手だてとして、効果的な会報づくり、会合の適時性、会員の意志の把握の仕方等について活発な意見の交換があった。助言の先生方からの指



また、大信中よりは、「生徒の進路指導」について、学校が進路指導研究学校として指定を受けたことを機に、親・子・学校が一体となり、生徒の進路について真剣に取り組んできた具体的な内容(村内企業訪問、進路指導の授業参観など)が発表された。



相馬大会

第四分科会

「広い心とたくまし
い体を持つ
子どもを育
てる活動を
推進しよう」

提言では、

会津高田町
立藤川小学
校PTAから
育成会を
とおしての

スポーツ少年団活動、公民館主催による藤川少年教室の開催等、練習や試合をとおしての人の出会い、触れ合いを大切に
する子どもの育成を図っているとの発表があった。

又、田島町立針生小学校PTAからはスポーツ少年団の活動が活発で、心身共に健康で明るい仲間づくりが展開されてきているという報告があった。そして、双葉町立双葉中学校PTAからは、二十一世紀をめざし、たくましく生きぬく子ども、創造的でたくましい心身の子どもを育成をめざすための社会体育やPTAの連携としては、地域ぐる



みの社会体育への積極的参加、地域スポーツ施設の整備と活用等が大切であるとの提言があった。協議会では、スポーツ少年団と学校のクラブ活動部活動の両方に所属している場合の問題点、練習試合の時の輸送等、現実的な問題点について意見の交換がおこなわれ、最後に助言者から、子ども達の生活リズムの変化、遊び内容の変化等から指導する場合の心構えについて、最終的には自己教育力の育成を目標に指導することが大切であるとの指導、助言があった。

第五分科会

「健全な子どもを育てる地域活動を盛りあげよう。」

東白・田村・大沼の三地区から健全育成のための組織づくりと諸活動について発表があり、各地区それぞれ創意工夫をこらしての活動が紹介された。活動の中で互いの理解が深まり、円滑な運営ができたこと。PTAと各種団体が健全育成のため連携を保ちながら成果を上げた例。更に親子の絆を高めるための親子レクと奉仕作業。学校全体での「物づくり作業」など、各地区での組織活動、地域との連携が強力に行われていることに印象深いものがあった。

研究協議では、各委員会の活動と具体的にどうかかわりを持ったか。どのような態度で指導しているか。他の健全育成団体との連携はどうか。更に、成果をどう今後に生かしていくか、など活発な協議がみられ、PTA活動のため建設的な意見がみられた。

第六分科会

「心身に障害を持つ子どもの教育をPTA活動の中で積極的に取りあげよう。」

提言は、平野中から、理解推進校の指定を受けて養護学校との交流活動を通し、障害児に接する考え方の見直しと理解を深める研修の成果など。喜多方養護からは、障害児の親子共々の活動や地域との交流を通して理解を深め、障害児教育を推進するPTA活動等。橘小手をつなぐ親の会より、障害児の社会自立を目指し、親と子、先生が一体で体験学習や課外活動に取り組んでいる実態と障害児の親の考え方の調査結果の状況報告。

研究協議は、心身障害児に対する正しい理解を通しての心を思いやり、手を携えて共に生きる活動を主題に進められた。特に、自立の芽を育てる理解と思いやりの具体的な活動の在り方。交流教育の継続と活動の充実をめぐること。障害児への偏見や誤解をなくすた



最後に阿部・渡部両先生から、総理府の家庭と地域の教育力に関する世論調査をもとに家庭と地域の教育力の低下の問題、子どもと親の接し方の問題、そして、体験学習のとり入れは児童生徒に感動を与え、補導より効果が大きいこと。更に青少年のために学校と家庭の連携だけでなく、地域社会との連携も大切である。特に学校行事に地域の人に参加する。子どもが地域の行事に参加させることなどが連携の進め方として大切であるという助言をいただき、意義深い分科会であった。



めの一一般の人々のあるべき姿。障害児をもつ親子の積極的な社会参加等について討議された。久保・板垣両先生からの助言の中では、高齢化への時代の変化を見通した障害児教育の在り方。社会の中で心が中枢となるべき「心の教育」について。障害児を正しく理解する手だてとして「障害児と肌で接する機会と交流教育の推進。地域社会への積極的な参加。親自身の意識の改革と家族の共通理解。」等の将来に向けての障害児の理解とPTA活動の方向を核に助言があった。

県・相馬大会

吉井田小PTA会長
二瓶由美子

潮の香を風にのせて、第三十八回県PTA大会は地域色豊かな民謡の音とともに相馬の地にその幕を開けました。街の角々に立つ誘導の役員の方々、きびきびと立ち働く裏方の役員の方々、その結束力に、PTAという、子供たちを媒体とした力強い組織の姿を見たように思いました。

開催までの御苦労に心より敬意を表したいと思います。

さて、相馬大会では、21世紀をなう心身ともにたくましく個性豊かな子供の育成をめざして、各分科会において各単Pによる意欲的な提言がなされました。家庭・学校・地域社会・市町村……誰もが子供たちの未来のために、たゆまぬ努力を払っていることを痛いほどに感じました。

しかし、21世紀が輝くべき未来だけではなく、地球の砂漠化・オゾン層の破壊といった諸問題を



抱えていることも現実です。国際的視野に立ち、子供たちに展望ある次代を伝達できるよう努めな

PTA研究大会に出席して

ければと強く心に刻んだのは、地平線の彼方に広がる太平洋に深い感動を覚えたためでしょうか。

東北・三沢大会

河東一小PTA委員長
田中三枝子

「未来へはばたく心豊かな、たくましい子どもを育てよう」を大会主題として、二千百余名の会員がそれぞれのサブテーマのもとに六つの分科会に分かれました。私の参加した第五分科



な子どもに、学校と家庭

会では、「連携を深めて心豊かな子どもを育成を」をテーマに、中学校教育と家庭教育について協議されました。その熱心さ、活発さに七時間の長旅の疲れも忘れ感動いたしました。

あらゆる点で急激に目まぐるしく変貌している今の社会の仕組みから考えると、二十一世紀の社会を、住み良く明るい社会にするためには、我々大人はもとより、人間疎外の連帯感のない社会を改革していく強い子ども、また、それを乗り切る賢明

1. 子どもの個性を尊重し、自信と誇りを持たせるPTA活動を進めよう。
2. 親と教師が信頼し合い、共に学び実践するPTA活動を進めよう。
3. 学校・家庭・地域の連携を深め、地域の特性を生かしたPTA活動を進めよう。
4. 世界平和を願い、国際性豊かな日本人を育てる

PTA活動を進めよう。まさに時宜を得たものであり八千人を超える会員が相集い、研究協議がなされました。本大会を通じて、増々グローバルな親の役割を痛感させられました。保護者と教師がより一層相携えて、子どもの幸せを願い、教育環境づくりに邁進することを再認識させられました。

大会事務局から

一か年の歳月を費して準備した割には、反省させられることの多かった事務局の今の気持である。まず、素晴らしい前年度の喜多方大会の緻密な実施記録を参考に相馬大会の編成に取りかかった。編成時に苦労したのは、第一に大会主題と分科会の研究視点の作成であった。ここ数年の県大会の流れ、東北P・全日P大会の取組みも参考に、本県の実情とニーズに沿った編成案を作成するのに約一か月を要した。次に、会場の設定とその運営の方法に頭を悩ませた。また、シンポジウムのパネラー、助言者、講演金田氏の熱弁も大会を盛りあげていただいた。終始大会をご指導くださった県本部役員、事務長さんとおわせて心より「お陰様で」と感謝したい。

全体会会場（沖縄コンベンションセンター）



《遠南》 郷土の伝統を 取り入れた学年行事

川俣町立川俣小学校PTA

この活動は、親子のふれ合いと郷土理解をねらいとした学年単位で行う活動である。親子のふれ合いを通してあたたかい人間関係を育成すると共に、郷土の文化財、伝統的な工業等にふれさせる活動である。あわせて、連帯感の必要性が問題となっている今日、学級や同学年の親同士が知り合うと共に、他人の子供を知り、また子供達も友達

の親を知って、共々親密を行った。
▼各学年の活動内容
一年伝承遊び、親子体操。
一年昔の遊び。
三年民話を聞こう。
四年草木染め。
五年今の川俣町を知ろう。
六年昔の川俣町を知ろう。
▼親子で楽しく学んだ
草木染め。
六月二十四日(土)に実施した四年生の学年行事は、郷土の伝統的工業の一つである「草木染め」を行った。



(山根氏より指導受けている)

本町には、草木染めの権威者である山根正平氏が在住していることから講師にお願いした。山根氏から草木染めの手ほどきを受け、親子で実際に川俣町の特産物の一つである絹を使い、しぼり染めのハンカチを作った。
しぼり染めも山根氏考案の四年生でもできる割ばしと輪ゴムを使っている方法を教わった。

核家族的な家庭の多い現在、祖父母から民話等聞く機会のない子供達に川俣町に伝わる民話を佐藤信子氏に聞く会を七月一日に実施した。

小手子姫の話をも親も民話の中へ引き込むような、上手な口調での話しかけであった。今まで小手子姫神社の言い伝いなど知らなかった子供、親が民話聞いてはじめて知ることができた。

秋のお祭、四季おりおりの祭りに参拝する神社や寺など毎日見ているも、その歴史については知らないことが多い。そんな反省から、昔、今の川俣町を知ろうと高学年では、親子でふるさとの史蹟めぐりを計画している。
各学年とも学年委員長を中心に行事の質的向上を図るため、内容を検討して実施している。各学年とも出席率は百%である。

特色あるPTA活動

《伊達》

子どものためにある PTA活動の推進

国見町立森江野小学校PTA

森江野小学校は、東北の北端国見町の南東に位置し、奥州合戦の舞台となった阿津賀志山を眺望できる田園の中にあつて、静かな自然に恵まれた学校である。

本PTAの誕生は昭和二十二年、戦後の混乱の中に出発して今日まで子ども達のためのPTAを活動目標として歩んできた。会則や運営組織は時代や社会情勢の変化と共に改善されて来たが、子ども達のために一致連携して進められている活動の一端を紹介する。



(親子の合同いも煮会)

会・もちつき大会・伝承あそび大会等、従来の夏休み旅行中心の子ども会行事からの脱皮に努め、子ども達の体験を広げる社会参加活動の充実を図っている。

○学年委員会活動
学年別のゲーム大会とも煮会、学年別球技大会と学年合同いも煮会、児童会主催森小まつりと合同いも煮会、実施方法は年度によって異なっているが、子ども達の自主活動の援助と親子のふれ合いをめざした学年行事を進めている。特に卒業学年は独自にキャンプや球技大会を企画し、小学校生活最後の思い出行事の開催に努めている。

▼森の子どものため
本PTAには、教養、厚生、校外補導、施設の四つの専門部会があるが、各部とも本部との連携を図りながら自主的な事業の推進に努力している。春秋二回の早朝奉仕作業による学校環境整備を始め、子ども達のためにあるPTA活動をめざしている。

《郡山》

生徒の健全育成を目ざし 家庭と学校を結ぶPTA活動

郡山市立宮城中学校PTA

郡山市内でも最も小さい中学校で、生徒数一九九、会員数一三八、緑に囲まれた穏やかな環境に恵まれて生徒指導上の問題もほとんどなく、小人数の良さ、ひとりひとりお互いがわかり、暖かな家庭に育まれて生徒も素直で伸び伸びしている。

本PTAは、子ども達の健全育成の振興充実のために次の活動を行っている。(1) よい父母、よい教師になるための活動、



(ふきの出荷作業)

- (2) 生徒のよりよい心身の発達を図るための奨励活動、
- (3) 生徒の学習環境をよくする活動、
- (4) 家庭と学校の連携を密にして生活指導の徹底を図るための活動

その方部の会場で子ども達の生活や学習指導について話し合い、連携を深める。ときには映画を見たり、方部によっては両親で参加なごやかに、真剣に話し合う。

▼バザー 生徒の文化祭に合わせて年一回の実施、生徒全員の家庭の協力もあって少ない会員数の割合にはかなりの収益金をあげる。

▼就職生激励会 就職する生徒に対して奨励委員会が中心に全教師とPTA役員で励ます会を持つ。年々就職する生徒は少なくなり、今年度は一名の予定、参加者全員より励ましのことばを受ける。特に特色ある活動でもないが、堅実で自然、無理のない、きめ細かな生徒ひとりひとりを大切に育成の環境づくりは一夕に出来たものでもなく、大切にしている。誇りにもしている。

特色あるPTA活動

参加、全員活動という特色があり、父親出席を始め、夫婦参加が目立ち、活性的な活動が展開されている。

《岩瀬》

手づくりPTA

本年度は三賞受賞

須賀川市立柏城小学校PTA

本校は、自然の緑と清い空気と水に恵まれたすばらしい環境に囲まれた、柏木館跡に建てた学校である。

学校は、昭和五十七年四月に開校されたが、旧滑川小学校百余年の歴史と伝統を継承し柏城小学校としての新しい歴史や伝統を培って行こうと、地区を挙げて張切っている。

PTAは、新旧合体した新興的な気風があり、新しい学校に「新たな魂を」息吹いていくと精力的な活動を続けている。

当PTAは、どんな活動にも全員参加という特色があり、父親出席を始め、夫婦参加が目立ち、活性的な活動が展開されている。



(親子でフォークダンス)

ペンキ塗り、学習花壇、畑の整備、親子ガラス磨き、通学路の除草まで手を伸ばすという、きめ細い活動をすすめている。

▼学年PTAは、学年P活動が奔流と親子手作り教室、親子スポーツ、ハイキング、サイクリング、芋煮会、星の観察、スキー教室、昔の遊び等々、学年相応の活動を展開し「親と子のふれあい」に努めている。

その特色は、九十五%の出席率で、夫婦参加もめずらしくなく、21世紀を担う子どもにかける、地域の期待の表われであると評価している。

本年度は「PTA優良団体」として地区、県、東北連P表彰を受け、これを記念して学校へ教育設備基金として百五十万円を贈り、グラウンドピアノ、音楽器材にこれを当てた。

情操豊かで思いやりがあり、健康でたくましい人間になって欲しいという願いをこめての贈物であった。

手作りPTA活動をみんなの手で、地味に着実に推めたいと願っている。

「いわき」 小・中連携と会員の意見が 反響できるPTAを目標に!!

いわき市立玉川中学校PTA

昭和五十七年四月に小名浜第一中学校より分離して、玉川中学校が開校され八年目をむかえ、本年度の県PTA大会のスローガン『二十一世紀になう、心身ともにたくましく個性豊かな子どもの育成をめざすPTA活動』が示すように、二十一世紀のにないてである子供達が「健康・勉強・奉仕」の校訓のもとで、校歌にうたわれている「若木のむれ」が、大きく、



(小・中合同グリーン作業)

執行部を中心に、総務、厚生、教養、補導、環境の五つの専門部と学年委員会が役員会として、活動し、執行部は自分の経験した事のある専門部にかかわりを持って、相談ののったり、助言をしたりしております。

本校の学区内には、小中学校は小名浜三小の1校、中学校は玉川中だけということから、お互いが、兄弟の小学校・中学校と言った感じで、先生方ははじめPTAも、常に連絡を取り合っており、連携して行動する事にとめて

います。
例年、春・秋の「いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動」では

三小児童会、玉中生徒会、先生方、PTAが一緒にあって、学区内の通学路の清掃を行ないます。また、三年前に生徒指導の指定校として、

公開授業が開催された際にも、PTAからも先生方と共に分科会に参加したり、意見を交換もPTAの二年間の活動を発表する機会をいただきました。

PTA会員のほとんどが、仕事を休んで、日中には会合ができない為、役員会は、夕方から夜にかけて、みんなが集まりやすい時間に開催する様にして、一人でも多くの意見が聞ける様にと考えています。

本年度、県連Pと東北連Pから表彰を受け、諸先輩の活動に対する評価の偉大さを思うとき、これからの活動を、益々充実させて行かなければと感じている次第です。

特色あるPTA活動

《双葉》

「より良いPTA 組織づくり」を めざして!!

双葉郡大熊町立大野小学校

本校は浜通り地方の太平洋に面した双葉郡の中心に位置する大熊町立の小学校であり、梨とキウイフルーツといったフルーツの特産地として、また東京電力株式会社の子会社である原子力発電所建設により原子力エネルギーの町として一躍有名になりました。

昭和五十七年度に移転新築した鉄筋コンクリート二階建の校舎に児童数五〇三名という中規模校である。PTA会員数は三六八名でその約四分が原子力発電所関連企業者の家庭であり、子どもの教育については非常に熱心である。したがって大半が共働き家庭にもかかわらずPTA活動には積極的に協力いたします。



(熱気あふれるPTA総会の風景)

学校の事業概要等を網羅した内容とし、新年度役員相互の親睦と融和並びに教師とのコミュニケーションを図る上からも、大変有意義な行事であります。同じ観点から六月に地区対抗親善球技大会(男子：ソフトボール、女子：バレーボール)を開催し、毎年八月に実施されている郡連P球技大会に向けての選手選考も兼ねている。その他に教養講座の一環としてママさんコーラスクラブ員を募集し、練習を通しての連帯意識の高揚に努めている。

学校行事にも非常に積極的に協力しており、特に春の運動会、校内相撲大会、校内マラソン大会、学芸会等には全員参加応援を合言葉としている。このような日頃の活動実績が認められ昭和六十三年度県PTA喜多方大会並びに双葉郡連P研究大会において事例発表校に選ばれた。更に本年度は県PTA相馬大会の席上表彰を受けたことにより、会員一同益々張り切っており今後のPTA活動に期待すること大である。

県PTA安全互助会だより

加入状況は

互助会制度の必要性、有利性から、年々加入者が増加し、本年度は十一月一日現在で、加入校数は八八九校を数え、加入率は、県内全校の九三%までに達してきている。

左表のとおり十九地区のうち十一地区が一〇〇%の加入率に達し、少額の掛金で、学童の学校管理下外の傷害補償と、P

平成元年度福島県PTA安全互助会加入状況(元11.1現在)

区分 地区	小学校		中学校		合計	
	加入単P数	加入率(%)	加入単P数	加入率(%)	加入単P数	加入率(%)
福島	48 (23)	100.0	23 ②	100.0	71	100.0
達南	12 (3)	100.0	3	100.0	15	100.0
伊達	30 (13)	100.0	8	100.0	38	100.0
安達	33 (12)	100.0	10	83.3	43	95.6
郡山	56 (4)	96.6	25	96.2	81	96.4
岩瀬	20 (3)	83.3	7	53.8	27	72.9
石川	28 (7)	100.0	8 ②	100.0	36	100.0
田村	38 (12)	100.0	16	100.0	54	100.0
西白河	27 (10)	100.0	14	100.0	41	100.0
東白川	21 (5)	95.5	4	100.0	25	96.1
若松	17	100.0	8	88.9	25	96.2
北会津	16 (5)	100.0	6	100.0	22	100.0
両沼	17 (8)	89.5	5 ①	50.5	22	75.9
大沼	10 (2)	100.0	4	100.0	14	100.0
耶麻	30 (2)	90.9	10 ①	66.7	40	83.3
南会津	19 (1)	100.0	11	100.0	30	100.0
いわき	55 (6)	75.3	28 ①	66.7	83	72.2
双葉	19 (5)	100.0	11	100.0	30	100.0
相馬	32 (18)	100.0	13 ①	100.0	45	100.0
合計	528(139)	95.1	214 ⑧	86.6	742	92.5

()は幼稚園数, ○は養護学校(福島・耶麻・相馬)分校(石川・両沼・いわき)

TP活動中の会員の事故補償をしていく、この制度の良さが、認められてきた結果であると喜んでいる。

どんな傷害が対象となるか

児童生徒においては、学校管理下外のあらゆる傷害、例えば、ローラースケートなどの遊び中の

傷害、自宅での傷害、交通事故による傷害などである。PTA会員においては、PTA主催、共催の行事に参加中、その準備中、練習中(往復途上も含む)の傷害が対象となる。

なお、受傷した日から治癒した日まで八日間以上の傷害で、その内、初診日より治癒した期間の実通院日数が三日間でも補償されるので、まだ未請求の傷害があれば、早めに提出していただきたい。

月刊PTAがwith LOVEに生まれ変わる!

昭和六十二年六月、社団法人日本PTA全国協議会と単位PTAを結び機関誌として、「月刊PTA」が創刊されて二年余の期間、購読者には好評を得ておったが、いろいろの観点から良書普及を目的とする社団法人日本学生図書協会と連携して、十、十一月号より誌名、内容も

一新し、より多くの読者の参加しやすい、PTAを含めた総合的教育誌として、前述図書協会に発行を委ねることになった。詳細については、「月刊PTA」に掲載されておるが、県連Pとしても、二年余にわたってご読をいただいた皆様に対して、誌名は変わっても内容は、PTA活動の活性化の専門誌として、また家庭教育の手引書として十分に活動することができると期待している。多数の作品を募集する。対象

交通死亡事故 緊急事態宣言

一瞬にして人命を奪い平和な家庭と生活を破壊する交通事故が多発している現状は、異状な事態であるので、平成元年十月二十三日、県交通対策協議会並びに県知事の名において、交通死亡事故に緊急事態宣言し、県民総ぐるみで交通死亡事故抑止緊急対策を強力に推進することになった。

県連Pとしても、会員子どもの事故撲滅にあたりたい。

第13回子どもの災害事故防止ポスター・習字募集要項

今年も、災害事故防止の作品を募集する。多数の作品を募集している。対象

福島県内小中学校

募集要項参照(十一月各校へ配布)

応募締切

平成二年一月末日

表彰

平成二年三月一日

提出先

県PTA連合会事務局

編集後記

▼県連P、相馬大会が大きな成果をあげて終了した。大会を特集した会報第28号をお届けする。▼今年開催時期が昨年と比べて約一か月ずれたので発行も遅れた。▼大会に関する紙面は大会事務局へ依頼した。ご多忙な中、整理された原稿が期日まで送っていたいただき、感謝している。▼昨年の秋は早い寒さに驚いたが今年には好天続きでありたい。向寒の折、ご健康で、充実した日々を祈る。

すめするとともに、今後ますます購読者がふえるよう期待するものである。なお、現在まで購読なされておる方の新雑誌に移行することについては、日本PTAにおいて処理することになる。

With LOVE

月刊PTAの概要

判型/A4判

購読料(一年分)三〇〇〇円

発行日/毎月十八日

発行 社団法人日本学生図書協会

申込方法/県連P事務局へ連絡